

萌出途上の6相当部にみられた

エプーリスの一症例

新村健三、瀬尾令士* 岡村和彦** 本川涉***

熊本市 新村歯科医院

*熊本県 医療法人皓奏会瀬尾歯科医院

**福岡歯科大学口腔病理学講座

***福岡歯科大学小児歯科学講座

小児歯科臨床において、新生児エプーリスの発現に関する報告はよくみられるものの、学童期、特に10歳未満でのエプーリス発現に関する報告は極めて稀である。今回、演者らは萌出途上にある上顎左側第一大臼歯相当部の歯肉縁上に限局して発現した有茎状を呈するエプーリスの一症例に遭遇したので報告する。

症例：昭和60年5月10日生まれの女児

初診：平成3年5月31日 6歳10ヵ月

主訴：6咬合時の歯肉の疼痛

家族歴：特記事項なし

既往歴：新生児高ビリルビン血症

全身所見：体格栄養状態とも良好

口腔内所見： 現存歯 $\frac{6EDCB}{6EDCB1} \mid \frac{BCDE}{12CDE}$

で Hellman の Dental age は II c である。6|歯冠部は完全な萌出状態にあり歯冠の部に僅かなエナメル質形成不全が認められる。6|6は萌出途上であり遠心部の一部は歯肉に被われている。また6は未萌出状態で歯肉に被覆され中央部に有茎状のエプーリスが認められる。

X線所見： 口内法によるX線写真で $\frac{6}{6} \mid \frac{6}{6}$ に

比べて6の位置は低位にあり萌出遅延が認められる。

病理組織：一部に繊維化を有した肉芽腫性エプーリス
学的診断 エプーリス

予後：術後14ヵ月経過した現在、再発なく予後良好。